

研修報告書No. 8

所 属：昭和大学横浜市北部病院研修医
研修先：本山町立国民健康保険嶺北中央病院
大川村国民健康保険小松診療所
高知市土佐山へき地診療所

高知の地域医療の現状

今回研修で働かさせていただいた嶺北中央病院は、医師 7 名で病床数約 100 床のこの地域の中核病院であった。病院へのアクセスは車がないと厳しく、公共交通機関は一日 6 本のバスのみであった。それゆえ病院にいけない患者は、病院から診療所に出張し、診療所からのバスを利用し受診したり、こちらから訪問診療をしている状況だった。そのため診察を受ける機会も限られており、私が普段過ごしている環境(タクシーを呼べば受診はできる)との差を感じた。またこのような診療所に受診する方がどのような場所に住んでいるのかというのを目の当たりにし、山道に民家が点在している状況で、多くが 1 人暮らしのため急変時に対応が遅れることが懸念された。とはいえこのような地域での医療に従事する医師の数も限られており、ある程度の限界ではあるのだと思う。病院近くでの生活環境も、近くにスーパーが 1 件あるのみで、食事を食べに行くところもあまりなく、他の娯楽施設などは皆無であり、車なしには生活が不便であることを痛感した。

高知県内の人口当たりの医師数は多いが、多くが都市部に集中しているという話を聞いたが、この病院も自治医大出身の若い先生が多く、やはり高知県内の医師がこのような地域の病院を志望しないということなのだと思う。内科医師であっても範囲にとらわれず、さまざまな疾患に対応しなければならず、高い **generality** を必要とされていた。もちろん専門的な治療が必要な場合は転院の必要があるが、高知市内の病院に行くのに片道 1 時間以上かかり地域医療の難しさを感じた。このような環境下ではやはり医師が集まりにくいであろうが、その分良くも悪くもいろいろな経験が accrue するのであろう。

研修内容に対する意見

研修内容で特に印象に残ったのは、やはり診療所での診察であった。診療所ではエコーやレントゲンも撮れるのだが、読影はもちろんフィルムの作成も自身でやる必要があり、このような診療所のスタイルが初めての体験であったので新鮮であった。受診される方は多くが定期受診ではあるが、医師は相談窓口であり、普段診療しない範囲のことにも不適切でないアドバイスをしなければならないことに難しさを感じた。また、高齢者（特に定期受診）では多くを訴えないこともあり、QOL の改善につながることもこちら側からアプローチして引き出す必要性があり、よい経験になった。

嶺北中央病院では、中核病院であることもあり、CT、MRI、透析室など僕の想像以上に設備が整っている印象ではあった。その中で内科全般を診療することができた。おおむね普段はできない経験ができたので満足している。

今回の臨床研修で得たと考えられるもの

地域医療では、都市部の大きな病院とは違い、すぐに専門的な検査ができるわけではなく人手も限られている。その中で的確な判断をするために、広範囲の知識と診察のスキルを身に着けなければならないと実感したことで、普段いる病院とは違った経験をすることができた。また、大きな病院に来る前に予防的に診療し、患者が重症化するまえもしくは疾患にかかる前に防ぐのが地域医療の役目であると聞き、その仕組みや実際に行われている取り組みをよく知ることができた。